

令和7年度 大阪府障がい児等療育支援事業「地域別交流（研修）会」

環境から考える、こどもたちとの関わり

～ 4つの環境と家族支援（きょうだいを含む）、本人支援との繋がり ～

研修形式：講義＋グループワーク＋事業所交流

かざみどり相談室 主任相談支援専門員 宮崎充弘

研修のねらいと3つのアウトカム

研修のねらい

本人支援と家族支援（きょうだいを含む）を「環境（人・場・時間・制度）」から統合的に考え、地域連携で実際に使える形にしていきます。

①実践の可視化

各事業所がこれまで行ってきた支援の強みや工夫を、誰にでもわかる形で整理します。

②近隣連携の具体化

顔の見える関係づくりを通じて、地域で協力し合える仕組みを作ります。

③明日からのアクション

研修で学んだことを、すぐに現場で実践できる**3**つの行動として持ち帰ります。

環境から考える基本フレーム

支援を考えるとき、「環境」という視点を使うと、より具体的で実践しやすい計画が立てられます。環境は4つの要素で構成されています。

1

人

家族、きょうだい、支援者、仲間など、こどもの周りにいる大切な人たちです。

2

場

家庭、園や学校、地域、事業所など、こどもが過ごす様々な場所です。

3

時間

生活リズムや、園から学校への移行期など、時間の流れの中での変化です。

4

制度

権利、サービス、連携など、こどもと家族を支える仕組みです。

❏ 大切な視点：困りごとを「願い」に言い換える/ストレングス（強み）を見つける/合理的配慮を考える/縦横の連携を作る/インクルージョン（包み込む）を目指す

100か月 ビジョン×こども基本法を現場で使う

100か月 ビジョンとは

妊娠期から小学校1年生の途中までの約100か月は、人格の基盤が作られる大切な時期です。この時期に切れ目のない支援を行うことで、家庭と地域全体を支えていきます。

こども基本法の5つの理念

- こどもの最善の利益を第一に考える
- こどもが意見を言い、参加できる
- ウェルビーイング（心身の幸せ）を大切にする
- 家庭全体を支援する
- 様々な機関が包括的に連携する

現場で使える言葉に翻訳すると

生活リズムを整える：規則正しい生活が安心の土台になります。

予告と見通し：これから何が起こるかを伝えることで、不安が減ります。

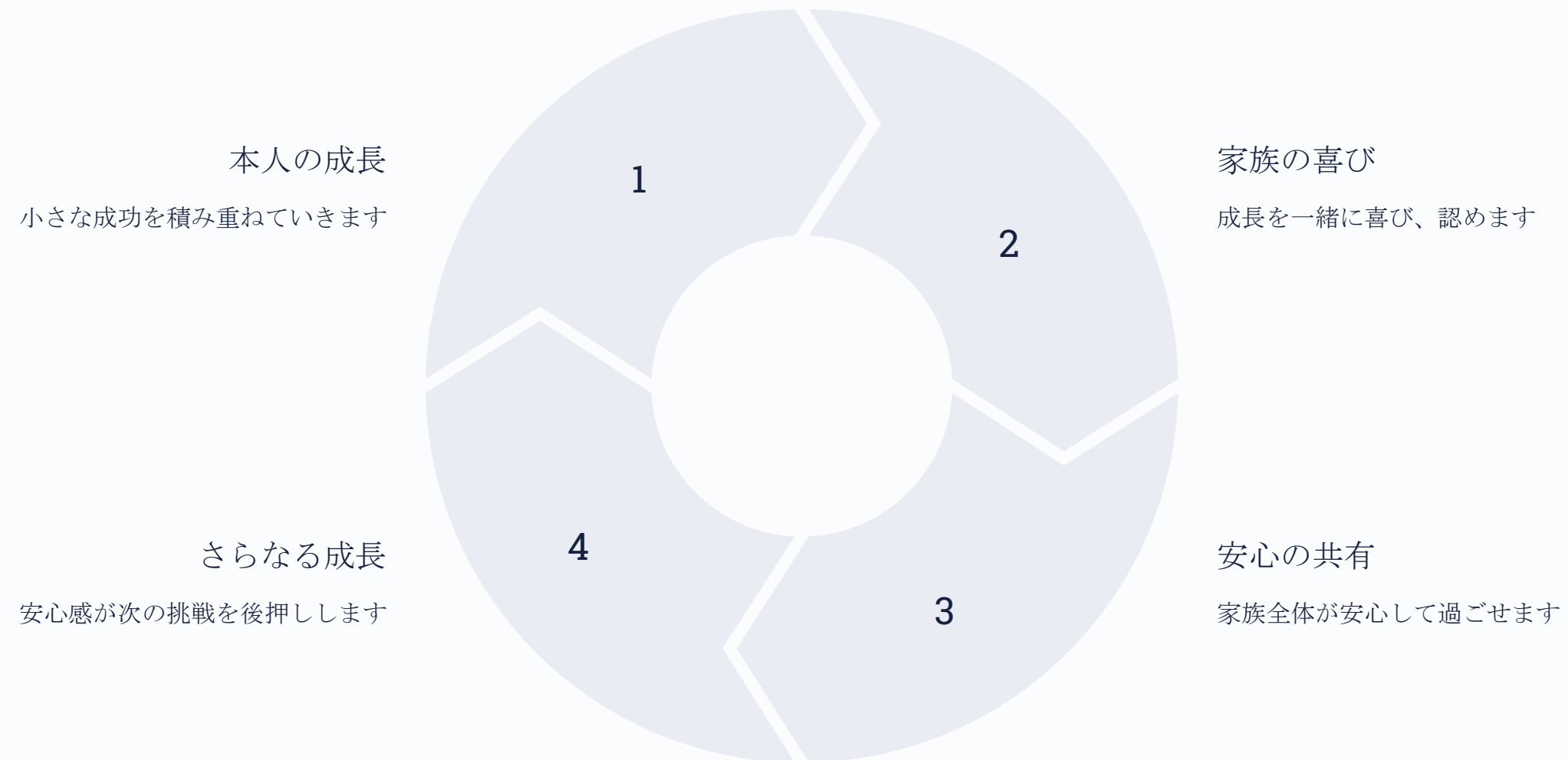
保護者支援：保護者が安心できることが、こどもの安定につながります。

多機関連携：様々な専門家が協力することで、より良い支援ができます。

計画・記録・モニタ：これらを個別支援計画にしっかり書き込んでいきます。

しあわせ感の共有と好循環

家族全体が安心して安定していることが、こども本人の情緒の土台になります。成功体験を家族みんなで共有することで、良い循環が生まれます。



きょうだい支援の重要性

きょうだいは「見えないケアラー」や「沈黙する支援者」になってしまっていることがあります。きょうだい一人ひとりにも、個の時間、居場所、語りの場を確保することが大切です。

実践のポイント：個別支援計画に家族目標ときょうだい目標を併記し、測定できる形で書きましょう。

グループワーク A：環境から考える支援デザイン

目的：本人支援と家族（きょうだい）支援を環境の要素で統合し、来月までの具体的なアクションを決めます。

01

事例を選ぶ

年齢・特性、家族構成とそれぞれの役割（きょうだいの様子も含む）を書き出します

02

困りごとを願いに変換

例：「疲れている」→「休息が欲しい」 / 「きょうだいに申し訳ない」→「きょうだいの時間を確保したい」

03

環境マップを作る

人・場・時間・制度の4つの視点で、使える資源を整理します

04

配慮事項を確認

合理的配慮と安全配慮（尊厳の保持・リスクの低減）を考えます

05

資源を確認

園や学校、医療機関、相談機関、地域の資源を洗い出します

06

アクションを決定

来月までに実行する具体的な行動を3つ決めます

事業所交流・意見交換会

ねらい：地域資源の可視化、連携の具体化、人材と情報の循環を作ります。一人1分で紹介し、表に記載してから、次回のテーマを設定します。

事業所名	強みと実践	地域資源・連携先	問い合わせ
例：〇〇事業所	きょうだいプログラムを毎月実施	市内の学校3校と連携	連絡先を記入

 顔の見える関係づくりが、地域連携の第一歩です。お互いの強みを知り、困ったときに声をかけ合える関係を作りましょう。

グループワークB：計画・記録・モニタの型

目的：本人支援と家族・きょうだい支援が「つながる」個別支援計画、月次記録、モニタ指標を整えます。

長期目標

本人×家族×きょうだいの3つの視点で設定します

短期目標

SMARTの原則（具体的・測定可能・達成可能・関連性・期限）で具体化します

支援手段

本人・家族・きょうだいそれぞれの支援を紐づけて書きます

時間と居場所の確保

家族やきょうだいの個別の時間、レスパイト（休息支援）などを明記します

連携体制

園や学校、医療機関、相談機関、地域との縦横連携を書きます

モニタ指標

こどもの表情、生活の安定、家族の疲労度、参加度などを確認します

実装チェックリストとふりかえり

実装確認チェックリスト

- きょうだいの「個の時間」と「語りの場」を計画に明記しましたか？
- 家族の語りを「願い」に言い換え、支援目標に落とし込みましたか？
- 本人→家族→本人の好循環を意識した施策を入れましたか？
- レスパイトなどで家族の休息時間を確保しましたか？
- 連携ルート（園校・医療・相談・地域）を明文化しましたか？
- モニタで家族の変化（疲労・不安・参加度）も確認しますか？

ふりかえりのポイント

本日の学び：3点書き出してください

明日から試すこと：具体的な行動を3つ決めてください

自事業所の強み：どんな地域資源を持っていますか？

連携したい先：どこと、どんなテーマで協力したいですか？

本日はありがとうございました。環境の視点で、こどもたちと家族のしあわせを一緒に作っていきましょう。